（様式2）

3	7	5	0	3

令和6年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和7年1月25日
札幌市立稲陵中学校

1　本年度の学校経営の基本方針

1　生徒・保護者に信頼される学校づくり
2　教職員の協働体制による学校づくり
3　教職員と生徒・保護者・地域が一体となった学校づくり

2　本年度の教育推進の重点

1　学ぶ力の育成
2　豊かな心・健やかな体の育成
3　配慮を要する生徒への対応の充実
4　小中一貫した教育の推進
5　信頼される学校の創造

3　自己評価結果に対する学校関係者評価　　●印は自己評価　○印は改善の方策

分野	評価項目	自己評価 達成状況	自己評価 改善の方策	学校関係者評価 自己評価の適切さ	学校関係者評価 改善策の適切さ
学校運営	1　今年度の実践目標（協働による教育力の向上）に基づいた教育活動が行われている。	A	●デジタルでの情報共有や日常的な情報交流を心がけることにより、枠にとらわれない協働した教育活動の実践につなげることができた。 ●すぐーる、保護者集会やホームページなどを活用し、十分な情報発信ができた。個人情報の管理を十分に行いながら継続していきたい。 ●いつも校内の整備が行き届いており、健全な環境が維持されている。今後も現状を維持していくために、利用者一人一人の心がけを大切にしていきたい。 ○「すぐーる」や「シャボテン」などの運用・利用の仕方を整理していくことで、生徒の安全・安心や仕事の負担軽減につながると考える。	A	A
	2　各種説明会や学年・学級PTA、学校ホームページ等によって、学校の方針や様子を伝えている。	A			
	3　安全で安心して生活できる環境を整備している。	A			
学校関係者評価委員による意見	・「すぐーる」や「シャボテン」などのツールは紙ものより、リアルタイムに情報がわかるとても良いシステムであると思う。自分から言い出せないような子もボタンを押すだけで状態を伝えることが可能なので、きめ細かい対応をしてほしい。 ・生徒と教師だけでなく、教師と保護者も情報共有を密にし、協力しながら子どもを見ていく必要がある。				
学びと健やかな体	4　「学ぶ力」育成プログラムに基づいた、わかる・できる・楽しい授業づくりをしている。	A	●「学ぶ力」育成は、年度末に次年度のプログラムを提案し、新年度すぐに確認を行うことで、周知をしている。今年度も「自分の意見を進んで発言」という部分の取組の充実をお願いした。 ○家庭学習の指導は例年の課題であるが、生徒アンケートの結果、家庭学習時間が1年生から2年生で減り、3年生で増えるという現象が3年間続いている。より一層きめ細やかに指導していく。 ●評価に関しては、生徒アンケートでも「自分の努力の成果が正しく評価されている」の項目が高かった。成長につながるような、生徒の意識向上の工夫をしていきたい。 ●コロナ禍以降、2年生の職場体験を再開できていないが、2年間続いた専門学校の講師の方に講演をしていただく形式で職業について考える取組を継続していきたい。 ●今年度はコロナ禍以降初めてステージ発表に制限をつけない形で実施することができ、どのクラスも学級で協力して取り組む場面がみられた。 ○上記の通り、学校祭など成果を感じられたが、生徒アンケートでは、「学級活動や生徒会活動に自分から進んで取り組んでいる。」の項目がBになった。原因はわからないが、活動の周知、評価を強化するなど、次年度工夫していきたい。 ●道徳は今年度も学年教師で分担し、効果的な取組ができた。 ○道徳で振り返り用紙というものを、毎回記入しているが、他の教師の授業を受けた生徒の様子を共有する工夫をしていきたい。 ●「健やかな体」の育成について、例年通り体育の授業、給食指導などの場面を通し、健康な体つくりに必要な指導を行うことができた。 ●個々の生徒に応じた指導は、今年度の校内研究テーマに関わる部分でもあり、実践交流など行い研修することができた。 ○個に応じた指導は、数学科でのTTなどの取組はあるものの、十分とは言えず、今後も工夫していく必要がある。	A	A
	5　課題の工夫など、家庭学習を定着させる指導をしている。	B			
	6　生徒に自分の学習状況を把握させ、成長（意欲の向上）につながる評価を行っている。	A			
	7　3年間を見通したキャリア教育・進路指導を行っている。	A			
	8　学級活動や行事への取組を通して、望ましい人間関係の育成をしている。	A			
	9　豊かな心をはぐくむ道徳教育が行われている。	A			
	10　「健やかな体」育成プログラムに基づき、生徒自ら進んで運動に親しむ指導や健康な体づくりに必要な食指導を行っている。	A			
	11　個々の生徒に応じた指導や支援が適切に行われている。	A			

学校関係者評価委員による意見	・最近の道徳は生徒同士の交流を大切にしていることがわかった。生徒一人一人の考えが尊重され、多様性を認め合える部分を今後も大切にしてほしい。 ・家庭学習は以前からの課題であるが、「向学心」が大切である。「～のために学習する」という「自分が動き出す」ことをきっかけに改善していき、各家庭の協力をうまく得ていってほしい。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心	12 身だしなみ・時間などのきまりや、挨拶・礼儀などのマナーを十分指導している。	B	●校内研修を通して、全教職員が指導内容や指導方法の共通理解を深めている。また、委員会や学年協議会による生徒の活動で、身だしなみ・時間などのきまりや挨拶・礼儀の意識などの高まりがみられた。 〇12の項目の教師評価がBとあるため、より一層、各学年や関係校務部、そして全体が情報の共有化を図り、連携し合ってより良い学校体制を整えていきたい。 ●市教委の「いじめアンケート」の他、本校独自の「いじめ調査」によりいじめの未然防止につながっている。また、今年度よりシャボテンの活用により、生徒の心と体の状態や「話したい」ボタンも小さな変化を読み取る一つのアイテムとして役立っている。 ●1つ1つの指導案件を記録化し、全教職員が確認できるよう心掛けているため、連携して迅速に対応することができた。 ●生徒の活動する場所・時間には教師が見守る体制が整っており、いじめアンケート上には表れない事案を吸い上げることができている。また、日常のコミュニケーションを通して信頼関係を築き、安心して学校生活が送れる環境づくりに努めている。	A	A
	13 いじめを許さない指導と命を大切にする指導に取り組んでいる。	A			
	14 校内で起きた様々な問題について、適切な指導をしている。	A			
	15 教職員は、子どもたちの悩みや相談に親身に応じている。	A			
学校関係者評価委員による意見	・時代の変化によるきまりの指導の難しさやコロナ禍を経験している子どもたちへのあいさつの意識向上など難しい部分があるが、全職員で共通理解をはかり、子どもを見守ってほしい。 ・不登校の生徒への別室対応やオンライン授業など、今後も生徒の困り感に適切に対応していただきたい。				
開かれた学校	16 子どもたちが主体的に参加できるような日常の生徒会活動や旅行的行事が行われている。	A	●旅行的行事（フィールドワーク、宿泊学習、修学旅行）では、学年の実態に応じ、自主研修等主体性を育む活動を取り入れることができた。 ●稲陵祭（学校祭）を学級ごと部門別（ステージ・教室発表・装飾・オープニング・エンディング）の形式で実施し、生徒が多様な発表形式を楽しみながら、主体的に活動できた。 ●合唱発表会に向けた取組では、学級間の交流なども活発に行われ、互いに刺激を受けながら意欲的に活動する姿が見られた。 ●稲陵祭・合唱発表会には多くの保護者が来校し、学校の取組を知る良い機会となっていた。また、体育祭での飲み物、稲陵祭でのうちわ・お菓子の提供では、生徒がPTA活動に触れる良い機会となった。 ●「すぐーる」を活用し、家庭と学校の連絡がよりスムーズになった。 〇物価や人件費の高騰、バス不足など様々な要因により、旅行的行事の計画立案が年々難しくなってきている。限られた予算の中でいかに充実した活動にするか、情報収集しながら工夫していきたい。 〇参加する保護者の負担感を考慮しつつ、今後もPTA活動の充実を図りたい。	A	A
	17 地域・家庭・学校の三者が連携・協力する体制づくりを進めている。	A			
学校関係者評価委員による意見	・バスの確保やバス代の高騰によるスキー授業の廃止は仕方ないし、むしろ負担の大きさを考えるとよかったと思う。 ・学校だからできることを検討しながら、地域、家庭、学校が連携、協力できる体制をさらに進めてほしい。				